

序

日蓮大聖人伝富士の作者大東院日明^贈上人事柿沼廣澄師は昨年の末十二月十三日に遷化せられた。

富士は永年大日蓮誌に小説として連載されて居つたがその内容は大聖人の御伝記として史実に照し、又大聖人の御書を中心とし尚ほ宗教の真隨を以て力作された真実伝とも云うべきである。

今回我が法華講に於て此の富士を五巻の本にまとめて出版することになった。

私が此の序を書くに当つて野村光照君に依頼して、古来よりの大聖人の伝記と名のつく本の数を調べた所、大聖人伝記の最古といわれる本宗の御伝土代を初め最近

の湊邦三氏の日蓮大聖人にいたるまでその数およそ二百十数籍にも及んだ。その内柿沼師が所持していた本の数は三十五、六種もあつた。

故に柿沼師が此れ等多くの大聖人の伝記本を熟読し自分の見識をもって此れを纏め、大聖人の御書を柱として作り上げた日蓮大聖人伝富士は小説と言ひ条真実伝として我等は讃仰して然るべきであらう。

又日淳上人の序言は日蓮大聖人の御当体と御出現の意義を明確にし、本宗の教義を短文の内に示されておるのである。

本書は本宗信徒の教学の指針となることを見のがしてはならない。

昭和四十九年五月十六日

大石寺住日達